

経 済 Topics

■大分県内の最新経済動向について

大分県内の経済は「弱含み」となっています。製造業は海外景気の停滞などの影響から一部に弱さがみられ、個人消費は横ばい圏内で推移しています。観光業はインバウンド需要のけん引などにより、引き続き回復しています。

今回のテーマ

大分県内の半導体関連産業に関する調査

■はじめに

半導体はテレビやスマートフォンなど身近な家電や交通、医療といった社会インフラにまで広く用いられています。足元ではデータセンターなどの増設が話題になっており、半導体が活躍する機会は増え続けています。

また、コロナ禍では物流網の混乱により半導体の輸入が滞り、自動車などの機械の生産が停止したことなどから戦略物資としての存在感も高まっています。このような中、経済産業省の戦略の一環として熊本県へ TSMC が進出し、九州内の半導体関連産業の動きが活発になっており、「シリコンアイランド九州」復活の機運が高まっています。

こうした状況を受け、当研究所では世界、日本の半導体の動向を把握するとともに、県内の半導体関連産業の現状や熊本県に進出した TSMC が大分県内に及ぼす影響などについて調査しました。

■世界と日本の半導体関連産業の現状

世界の半導体産業はこの30年間で10倍以上の規模に成長しました。短期的にみると市況の好不況の波がありますが、長期的にみると確実に成長を遂げています。特に2021年には、コロナ禍のリモートワークを追い風にパソコン需要が堅調であったことなどから、大きく売上高を伸ばしました。

一方国内の半導体関連産業は、世界と同様に2021年に規模を拡大しましたが、半導体の売上高の世界シェアは年々低下傾向にあります。

■大分県内の半導体関連産業の現状

工業統計などによると、大分県の半導体関連産業の製造品出荷額等は約2,800億円、事業所数は約70か所、従業者数は約8,000人と、それぞれ全国で大体30位と中位に位置しています。しかし、集積回路の出荷額等をみると約2,200億円となっており全国で3位と上位に位置しています。

また、半導体を製造する過程として、ウエハの製造を行う「前工程」と、半導体を最終製品の形にしたり、検査をする「後工程」というものがあるのですが、九州の他の県と比べると県内には「後工程」の企業が多く集積しています。特に検査を行う企業の数、県内で 14 社と福岡県とほぼ同数の企業が集積しています。

■TSMC の熊本県進出による大分県への影響

第一に人材確保に影響が出ることが考えられます。熊本県内では、半導体関連企業を含む多くの企業が賃上げに取り組むとしており、特に新卒人材の熊本県流出が懸念されています。その一方で、県内の半導体関連企業にビジネスチャンスが生まれることも考えられます。TSMC はウエハ製造を行う「前工程」といわれる作業を行う会社であり、前工程の生産量が増加することで、先ほど記述した後工程の需要も高まると考えられます。大分県内に後工程の企業が多く集積していることから、需要を取り込むチャンスになるのではないのでしょうか。ただし、TSMC の技術力は非常に高く、対応するためには設備投資や人材教育といった企業努力は欠かせません。

また、半導体関連産業以外で観光業にも影響が及ぶと見込まれます。TSMC の給与は他の企業と比べて高水準であり、周辺地域へ観光に訪れた際、消費金額も高水準になると考えられます。別府や湯布院といった有名観光地だけでなく、他の地域も魅力の再発信することで、選ばれる観光地になることができるのではないのでしょうか。

■おわりに

九州内において半導体関連産業は TSMC の立地をきっかけにして、大きなうねりを見せています。九州外からの企業進出や設備投資も多く、「シリコンアイランド九州」復活に向け、多くの企業や機関が動き出しています。大分県はかつて国内最先端の半導体製造拠点でしたが、現在では立ち位置が低下しています。足元における九州内の半導体関連産業の動きをチャンスと捉え、民間、行政、支援機関などが一丸となり、取り組みを推し進めていくべきではないのでしょうか。

(提供：(株)大銀経済経営研究所)